2025 年度　名城大学経済・経営学会　学生研究助成プログラム
活動実施報告書

経営学部 山本（い）専門ゼミナールⅡ
文責　　山本　いづみ（経営学部）

校外フィールドワーク「三河港湾の見学」

1. ゼミの研究テーマと三河港湾の訪問見学

日本で暮らす我々は、輸入と無縁で生きていくことはできない。身近な日用品に目を向けるだけでも、それらの多くが輸入品である。このように深く輸入に依存した生活を送りながら、我々が貿易の仕組みについてどれほど知っているかというと、その理解は決して十分とは言えない。

このような問題意識のもと、2025 年度山本（い）ゼミⅡでは、池部　亮『グローバルビジネスとトレード』同文舘書店（2022 年 1 月）を基軸テキストに据え、貿易の仕組みに関する基礎的な知識の獲得と理解、実証的な視点の涵養を目指して、ゼミ生によるテキストの輪読をおこない、議論と分析を重ねてきた。

テキストで得た知識を実際の港湾物流の現場で確認・検証するため、後期開始直前の 2025 年 9 月 16 日には、三河港湾地区の見学訪問を実施した。

当日は、まず、三河港の役割・物流の仕組み・自動車船の内部構造などを、見て・触れて・体験しながら学べる、豊橋市所有の展示施設ポートインフォメーションセンター（愛称 カモメリア）を訪問し、入館した。

続いて、国土交通省 中部地方整備局 三河港湾事務所のご協力のもと、事前に予約申込みを済ませていた同事務所主催による船上からの港湾見学プログラム「みなとの見学」に参加し、「神野(じんの)ふ頭地区」を船上から見学した。

Ⅱ.三河港湾見学、中でも神野地区を希望した理由＊

三河港は日本のほぼ中央に位置する愛知県東部の国際貿易港で、蒲郡市・豊川市・豊橋市・田原市にまたがる広大な港湾区域を持つ。港湾区域は自然環境に恵まれ、300 を超える事業所が立地する産業集積地として発展してきた。

港は蒲郡地区・西浦地区・大塚地区・御津地区・神野（じんの）地区・明海地区・田原地区の 7 港湾地区から構成され、総延長約 20km の岸壁やコンテナターミナルを備えることで、中部地域の基幹産業である自動車を中心とした「ものづくり」を支えている。また、日本の中央に位置するという地理的優位性から、首都圏と近畿圏の双方をカバーする全国物流の結節点としても重要な役割を果たしている。

1970 年代後半からは国内自動車メーカーが三河港の輸出拠点化を推し進め、1991 年からは欧州を中心とした海外自動車メーカーの輸入自動車の流通拠点となっており、三河湊の自動車の輸出入取扱量は世界トップクラスに達している。

このような三河港湾の中でも、特に輸入自動車については神野地区が中心的な役割を担っている。財務省の貿易統計によれば、三河港は輸入自動車の金額・台数ともに 2025 年に至るまでの 33 年連続で日本一であり、その中心的役割を担っているのが神野地区である。

神野地区には欧米メーカーの輸入自動車の陸揚げ（海外から自動車専用船（PCC）で運ばれてきた車両を、港の岸壁で船から降ろす作業。降ろされた車両は、保税エリアで税関手続きを待つ）の拠点や、PDI（納車前点検。販売前の品質確認・点検）施設、VPC（車両加工センター。日本向けの装備追加や加工を行う）施設が集積しており、輸入車の受け入れから整備・加工までを一体的に行う体制が整っている。

以上のように、神野地区は日本最大の輸入自動車拠点として、輸入車の陸揚げから整備・加工に至るまでの全工程を担う極めて重要な地区であり、三河港が「世界有数の自動車港湾」と呼ばれる基礎のひとつを形成している。その実態の一端を現地で確認することは、ゼミにおいてテキストで学んだ貿易の仕組みを具体的な過程として理解するうえで不可欠であると考え、訪問見学を希望した。

＊注）　本節の三河港湾および神野地区に関する記述内容は、三河港湾振興会および国土交通省 中部地方整備局 三河港湾事務所が提供する各種文献資料に基づいている。

Ⅲ　三河港湾 神野地区の見学

2025 年 9 月 16 日、暦の上では秋を迎えつつも夏の快晴が広がる中、山本（い）ゼミⅡ生 11 名と引率教員の計 12 名は、午前 9 時に名鉄名古屋駅中央改札口前に集合し、名鉄名古屋本線特急（普通車両）で豊橋駅へ向かった。到着後、休憩を挟んで西口バス乗り場へ移動し、豊鉄バス「神野ふ頭線」に乗車して約 30 分で港湾合同庁舎前バス停に到着した。そこから数分歩き、ポートインフォメーションセンター「カモメリア」（入場無料）に入館した。

カモメリアは「日本一の自動車港湾、三河港を知る・学ぶ・楽しむ」をテーマとする施設であり、実物の救急救命艇、自動車運搬船のカットモデル、コンテナ船模型などが展示されている。我々も救急救命艇に乗り込み、また自動車運搬船やコンテナの構造を実際に確認することができた。

展望スペースに移動し、各自で持参した昼食をとった。13 時前には、三河港湾事務所企画調整課長の鈴木様、企画調整係の岩田様がカモメリアまでお越しくださり、三河港の構成や施設に関する資料と地図をご提供いただくとともに、詳細なご説明を賜った。

その後、「みなとの見学」に参加するため神野ふ頭の乗船場所へ向かう予定であったが、現地は日陰も休憩場所もなく、気温 35 度近い夏日で徒歩移動は熱中症の危険が高いとのご助言をいただいた。机上の計画の甘さを痛感したが、鈴木様・岩田様・三河港湾事務所様のご厚意により、我々は自動車に分乗して乗船場所まで送迎していただいた。

神野ふ頭の乗船場からは、定員 12 名の小型旅客船に乗り、運転士様、鈴木様、岩田様のご案内のもと、約 1 時間にわたり三河港湾内を見学した。ちょうどゼミのテキスト第 10 章「輸送」でコンテナ輸送を学んでいた時期であり、コンテナヤード、ガントリークレーン、保税エリアなどを中心に解説いただいた。巨大な自動車運搬船（PCC）を間近に見た際には、その圧倒的な規模に驚かされた。また、保税エリアに整然と並ぶ白い保護フィルムで覆われた陸揚げ直後の VW 車を目にし、輸入車物流の現場を実感することができた。さらに、40 フィート・20 フィートコンテナをはじめとする各種コンテナや、多様な荷姿・梱包の実例を確認し、テキストで学んだ内容を具体的に理解する貴重な機会となった。

見学後は再び自動車でカモメリア玄関まで送っていただき、御礼を申し上げたのち「みなとの見学」は終了した。その後、豊橋駅行きのバスまでの時間を利用して再度カモメリアに入館し、展望台から三河港湾と周辺地域を見学した。その際、豊橋市産業部の小松様がお声がけくださり、豊橋市が実施する見学プログラムの存在をご紹介いただいた。これは次回以降の訪問計画に活用すべき有益な情報であると考えた。また、豊橋市職員採用試験についてもご案内くださり、名城大学生への受験をご奨励いただいたことに一同感激した。

時間となり、カモメリアを出て港湾合同庁舎前バス停から豊鉄バス「神野ふ頭線」に乗車し、豊橋駅西口へ戻った。駅東口から徒歩 10 分ほどのかき氷店で休憩をとったのち、名鉄名古屋本線特急（普通車両）で名古屋駅へ戻り、解散した。

Ⅳ　見学で得た知見

今回の見学を通じて、三河港湾が神野地区の存在により、日本一および世界有数の輸入自動車港湾として機能する具体的な姿を、現場で確認することができた。特に、自動車運搬船（PCC）の規模や、陸揚げ直後の輸入車が並ぶ保税エリア、コンテナヤードやガントリークレーンの稼働状況、さまざまな荷姿を自身の目で確認し、テキストで学んだ輸送・物流の仕組みを実際のプロセスとして理解できた点は大きい。また、港湾行政の方々から直接説明を受けたことにより、三河港が日本の貿易や日本経済に果たす役割の大きさを実感できた。これらの学びは、ゼミ生が今後の貿易・物流の学習を進めるうえで重要な基盤となることだろう。

Ⅴ.御礼

今回の見学にあたっては、国土交通省中部地方整備局三河港湾事務所の鈴木様、岩田様、「みなとの見学」船の運転士様をはじめとする事務所の皆様、ポートインフォメーションセンター「カモメリア」の皆様、そして豊橋市産業部の小松様に大変お世話になった。皆様のお力添えがなければ、本見学は実現し得なかったものであり、心より御礼申し上げる。

また、本見学は名城大学 経済・経営学会 学生研究助成プログラム による費用支給を受け、交通費を賄うことができたことで実施可能となった。ここに厚く御礼申し上げる。

以上